


東京慈恵会医科大学 葛飾医療センター

1943年に東京慈恵会医科大学附属中川堤療養所となり
2012年に東京慈恵会医科大学葛飾医療センターとしてリニューアル



Interview 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター 院長
飯田 誠 耳鼻咽喉科学講座 教授

センターに関わる全ての人々が幸せであるように



フレキシブルな病院運営を

葛飾医療センターのビジョンは「総合診療体制・救急医療体制を強化し、同時に医療者への全人的かつ総合的な教育を提供する地域密着型の大学病院」です。私はこのビジョンを大切に、コロナへの対応と通常の医療を両立するためにフレキシブルに運営してきました。

リニューアルオープンして10年余、設備の充実を図ってきましたが、今後は限られたスペースを活かした医療ニーズの変化に対応していくことが重要です。そこでは周辺の病院だけでなく、本院も含めた慈恵グループとしての連携を強化していくことも視野に入れています。

典型的な地域密着型の病院

前身となる「東京慈恵会医科大学附属中川堤療養所」の開院以来、葛飾区を中心とした区東北部と近隣の患者さんが多い、典型的な地域密着型の病院です。また、地域の災害拠点病院でもあり、大規模災害や水害対策を強化した、地域および被災地の支援体制機能も持っています。

診療部門としては救急部、総合診療部を始め、内科、外科、精神科、小児科など多くの診療科を持つ総合病院であり、施設設備も11年目でまだ新しく、使い勝手がよく、機能も万全な清潔な病院だ

と言えるでしょう。

患者さん一人ひとりに寄り添う

慈恵の良いところは、やはり誰もが優しい心を持っていることでしょうか。「病気を診ずして病人を診よ」という建学の精神を医師、看護師を始めすべての医療従事者が理解し、患者さん一人ひとりに真摯に向き合っています。

実際に看護日誌などを読んでも「ここまで患者さんに寄り添っているのか」と感心させられることも多々あります。こうした患者さんを思いやり、寄り添う心で日々接している人が多いことは誇らしく思いますし、今後も大切にしていきたいと考えています。

誰もが幸せであることにこだわる

私が当センターに赴任してから17年が経ちました。長くいることで知り合いもたくさんいます。そこで常に考えてきたことは、患者さんは勿論、職員、近隣の医療機関、取引先など、当センターに関わる全ての方たちが幸せになるようにしたいということです。

救急室、コロナ病床、手術室などに時間の許す限り立ち寄って、困っていることがないかを確認したり、相談しやすいように普段から垣根を下げるように心がけています。単純にはいきませんが、常に見直しを続けて、どこかに負担が偏らないようにしていきたいと思っています。

患者さんの要望に応えていきたい

当センターは患者さんの要望に応えてあげられる病院を目指し、病気を治すこと以外にも、退院後の生活のためのリハビリテーションやソーシャルワーカーによる支援など、多方面から患者さんのお手伝いをしていきます。

ウイズコロナの今は面会や受診など様々な面で制限せざるを得ない状況になっています。私たちも精一杯やっていますが、どうしても限界があり、ご不便をおかけすることもあるかと思えます。是非ご理解をいただければ幸いです。

■葛飾医療センター概要



開設年 1943(昭和18)年
病床数 371床
教職員数(2022.7.1現在) 790名

2021年度 診療実績
●1日平均外来患者数 1,141人
●1日平均入院患者数 285人
●平均在院日数(入院) 10.4日
●手術件数 5,066件
●分娩件数 281件
●病床稼働率 76.7%
●患者紹介率 医療法 66.3% 保険法 67.2%

法令による医療機関の指定(2022.7.1現在)

- 東京都災害拠点病院
- 東京都指定二次救急医療機関
- 東京都難病医療協力病院
- 東京都感染症診療協力医療機関
- 臨床研修指定病院
- 他 合計22指定

第三者機関による評価

病院機能評価認定病院
(3rdG:Ver.2.0 初回認定 2017年5月12日)



4 附属病院における 患者さんのカルテ情報共有について



附属病院(本院)



第三病院



4 附属病院間のカルテ情報は、
地域連携システムを介して共有可能



葛飾医療センター

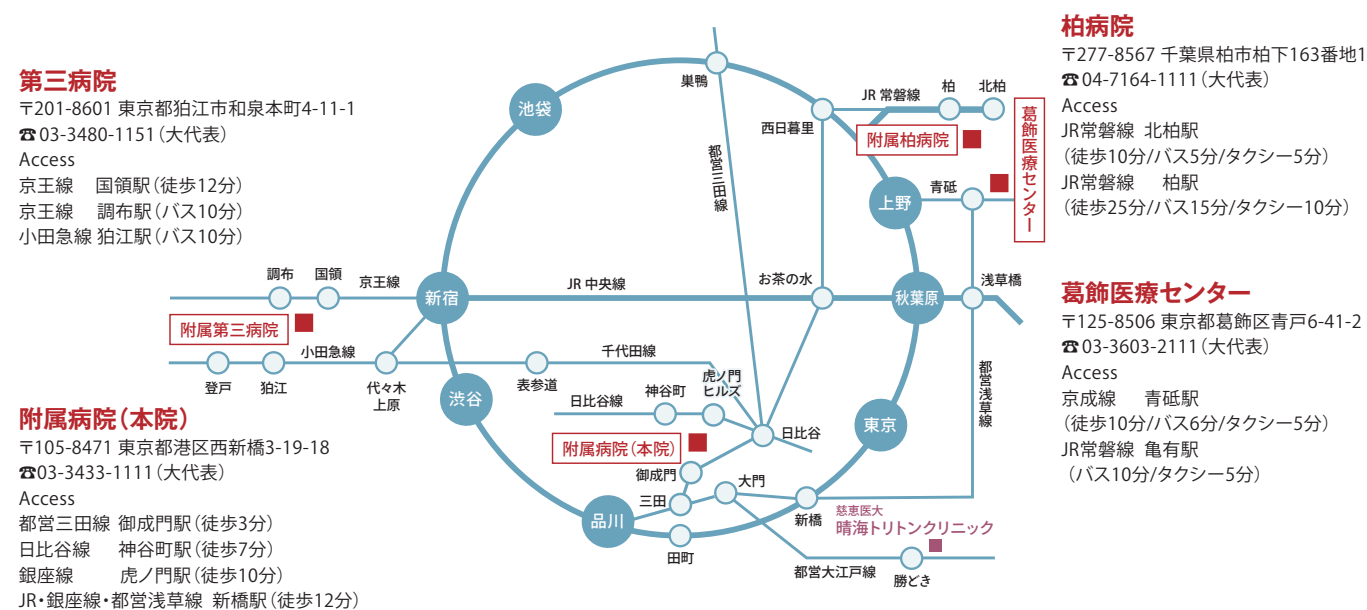


柏病院

2020年11月より東京慈恵会医科大学の4つの附属病院(本院、葛飾医療センター、第三病院、柏病院)では、患者さんの同意のもと地域連携システム(ネットワーク)を利用して電子カルテ情報を共有することが可能となりました。

このシステムを利用しますと慈恵大学4病院間の診療情報が相互に閲覧できるようになり診療に役立てることが出来ます。個人情報保護の観点から、診療情報を見ることが出来るのは、患者さんが同意した病院に限られます。また、専用回線を使うことで、外部からの不正な侵入を防止しています。医師がこのシステムを利用する際には、患者さんに説明を行いメリットや情報の取扱いなどにご納得をいただいたうえで、同意をいただいております。患者さんが希望されない場合や途中で同意を撤回した場合でも、患者さんのその後の診療に支障となることはありません。4附属病院におけるカルテ情報共有をご希望の場合は、主治医へご相談ください。

Access



発行者：学校法人 慈恵大学 広報課 <http://www.jikei.ac.jp>

本誌の記事はWEBサイトでもご覧いただけます

東京慈恵会医科大学 4附属病院広報誌

よつば

創刊号



Contents

東京慈恵会医科大学 4附属病院トップインタビュー ～病院長からのメッセージ～

- 附属病院(本院)
- 葛飾医療センター
- 第三病院
- 柏病院

4附属病院における 患者さんのカルテ情報共有について

広報誌「よつば」について
東京慈恵会医科大学は4つの附属病院を有しています。「四つ葉のクローバー」のように4病院が有機的につながり合い、力を合わせ、患者さんを中心とした医療を実践していくという思いを込め、誌名としました。

東京慈恵会医科大学附属病院 (本院)

1882年に学祖・高木兼寛によって設立された
日本で最も長い歴史を持つ私学の病院です



Interview 東京慈恵会医科大学附属病院 院長
小島 博己 耳鼻咽喉科学講座 講座担当教授

人を大切にして質の高い医療を提供していく

求められる安全な医療と社会貢献

病院運営で何よりも優先されるべきなのは医療安全です。安心して信頼される医療を提供し、結果として患者さんやご家族から選ばれる病院であることを目指しています。一方で、特定機能病院^{※1}としては高度先進医療の開発と実施、良いスタッフの育成によって社会に貢献することも求められています。

安全安心を基本に質の高い医療を実践して患者さんやご家族に信頼されるとともに、高度先進医療や良き医療人を育成して社会に貢献していくことが当院の使命なのです。

日本有数の診療実績を持つ大学病院

当院の特徴は患者さんの層が幅広いことです。官公庁や企業に勤める方たち、地域の方たち、全国から来る方たちもいます。外来受診者数は1日平均2,600人、入院患者数は1日平均760人、手術件数は年間約12,000件であり、日本で有数の診療実績を持っています。

2020年1月には新外来棟がオープンしました。「患者さんに優しい、高度医療・未来医療に対応できる外来」がコンセプトであり、十分に広く清潔な空間はそのまま厳密な感染症対策になりました。

当院は特定機能病院として高度医療、急性期医療に対応できるように施設整備を行っている拠点病院でもあります。また、母子医療センターは東京都の総合周産期母子医療センターにも指定され、コロナに感染した妊婦さんに対応できるような高次小児医療センターとしての機能を持っています。

人のつながりで成果を生み出す

慈恵の良さは人にあります。縦と横のつながりが強く、対応も丁寧です。医師と看護師を初めとしたコメディカルが一体となって患者さんに向き合うチーム医療でもその強みが発揮され、他科とのつながりもうまくいっています。

当院では診療科の壁を越えたゾーニングを特徴としています。関連性が強い診療科同士を連携がしやすいように配置して多くのメリッ

トを生み出し、しっかりと結果を出しているのも、つながりの強さがあるからです。

スタッフが働きやすい環境を整える

病院長として心がけているのは、スタッフがベストな状態で患者さんに接することができる環境を作ることです。押し付けにならないように職員が納得がいくように丁寧に説明すると同時に、各職場のスタッフをプロとして信頼することも大切にしています。大切なのは設備などのハードではなく、人です。人さえしっかりしていれば困難があっても乗り越えられます。患者さんを守るのと同時に教職員の安全を守り、その上で発展できるような病院の運営を目指しています。

時代の変化に応え続けていく

多くの患者さんとそのご家族に安心して医療を受けていただき、他の人にも紹介したいと言われる病院を目指して、スタッフ一同頑張っています。同じ病気であっても他の病院とはレベルの違う医療を全力で提供できるように心がけています。

今後は少子高齢化が進み、時代が変化していきます。大学病院としても変化する患者さんの悩みを理解し、求められる治療や手術を提供するなど、時代の変化にすばやく対応していくことを常に意識していきます。



※1 特定機能病院：高度の医療の提供、高度の医療技術の開発及び高度の医療に関する研究を実施する能力等を備えた病院として厚生労働省が承認。全国で87病院ある（2022年4月1日現在）

東京慈恵会医科大学附属第三病院

1950年に東京慈恵会医科大学3番目の病院として開設され、
2026年には新病院として新たな一步を踏み出していく



Interview 東京慈恵会医科大学附属第三病院 院長
古田 希 泌尿器科学講座 教授

地域に貢献できる複数科によるシームレスな医療を提供

2026年に新病院を開院予定

当病院は東京慈恵会医科大学の3番目の附属病院として1950年に開設され、1970年に現在の本館病棟が建設されました。それからすでに50年の歳月が流れ、老朽化が進んだことを受けて、2023年10月に新病院の建設に着工し、2026年に開院する予定です。

リニューアルに当たっては単に建物を新設するだけではなく、地域の医療ニーズに対応し、将来も発展可能なフレキシビリティにあふれた病院を目指し、「シームレスな医療をもとに地域社会に貢献する、機動性と機能性の高い基幹病院」を新病院の理念に掲げました。

患者さん中心のチーム医療

総病床581床を有する当病院は狛江市、調布市にまたがり、近隣の世田谷区を含めた3つの地域の急性期病院であり、患者さんには複数の疾患を重ね持っている高齢の方が多く、複数科による多面的なサポート体制を構築しています。

総合診療部を中心に30部門の診療科があり、総合診療研修センターでは総合診療医の育成に力を入れています。当院の診療は、医師をはじめ、看護師、薬剤師、放射線科、リハビリ科などコメディカルのスタッフの中心に患者さんとそのご家族がいて、チーム全員で医療を提供するという方針です。

共感と思いやりを最優先に

学祖・高木兼寛の「病気を診ずして病人を診よ」という教えは慈恵全体の共通の理念であり、附属病院である当院では臨床・教育・研究という医科大学の役割に加えて、地域に密着した医療を提供しています。

慈恵の強みは共感と思いやりに基づく医療を提供していることです。当院ではこの意識を徹底し、総合医療支援センターを窓口地域連携を強化し、入院中から退院後のフォローを含め、地域の患者さん一人ひとりに寄り添って、よりよい暮らしや生きが



いを共に創っていくと取り組んでいます。

縦割りではないシームレスな医療を提供

病院長としては地域のニーズを正確に捉えることが一番重要だと考えています。そのためにも、当病院では、チーム医療を推進して、縦割りではないシームレスな医療を提供し、その中心に患者さんご家族を置くようにしています。

それは医療安全にもつながることで、医療のエラーの多くは情報共有の不足や気付きの発信が生かされていないことが要因です。チームの中で誰もがリーダーシップをとることで、安全を確保できると考えています。

機能面を中心に日々進化を

当病院のリニューアルは建物だけではなく、新しいコンセプトを掲げて病院の機能をリニューアルするものです。シームレスな医療体制、地域貢献、健康推進事業など様々な改革を予定していますが、2026年を待つことなく今からでもできることには取り組んでいきます。

ソフト面を中心に今から見直しを進めて、より快適な医療を提供できるように、病院スタッフが一丸となって取り組んでいきます。今後も当病院を安心してご利用ください。

東京慈恵会医科大学附属柏病院

1987年に東京慈恵会医科大学の4番目の病院として開院し、
救命救急センターを持つ地域の基幹病院として貢献していく



Interview 東京慈恵会医科大学附属柏病院 院長
吉田 博 臨床検査医学講座／大学院代謝・栄養内科学 教授

力を合わせ、安心して受診していただける病院を目指して

困難を乗り越えて全人的な医療の提供を

2010年から当病院の副院長を務め、今年4月に病院長に就任しました。今は新型コロナウイルス感染症の拡大で社会が一変しました。病院にはこれまで以上に的確な対応が求められています。同時に、医療従事者の働き方を改善する働き方改革も推進しなければなりません。これらを両立しながら、本来の病院の使命とともに患者さんに寄り添った全人的な医療を提供していく体制を整えることが、私の使命だと考えています。

慈恵の心を持って急性期医療で地域に貢献

当病院は慈恵医大の附属病院の中で唯一千葉県にありながら、規模としては西新橋の本院について2番目に多い病床数を備える病院である事業規模が大きく、さらに東葛北部医療圏の5つの市の基幹病院として地域からも大きな期待が寄せられています。対象となる医療圏域には140万人の人々が住んでいます。『「患者を診る」慈恵の心とともに、急性期医療を推進し地域医療に貢献する大学病院』であることを使命に掲げ、毎日平均1,400人の外来患者さんを受け入れながら、年間4,500台の救急車と8,200人の救急患者さんを受け入れています。



本学には相手を思いやる暖かさや優しさがある

私は当院が開設された1987年に防衛医大を卒業して、研修・レジデント、留学、研究科、防衛医官などで診療、教育、研究、管理等に従事した後、2001年4月に慈恵医大に移動いたしました。本学の皆さんは私を温かく受け入れてくださり、共に楽しく仕事をしてきました。こうした優しさや暖かさ、相手を思いやる心は、建学の精神「病気を診ずして病人を診よ」にも基づくと思います。本学の学祖である高木兼寛は海軍軍医でもあり、医学生の頃から恭敬と親近感を覚えておりましたが、その建学の精神の教えは慈恵全体の理念であり、本学・他学を問わず当院に集う医師や多くの教職員に共通する使命の基本です。

コミュニケーションが心のゆとりを生み出す

まず3つのことを大切にしています。安心安全で質の高い医療を追求すること、法令を遵守すること、感染症対策を徹底することです。それに加えて大切なのが、垣根を越えたコミュニケーションです。どんな辛いときでも相手の立場を考え、お互いを敬う気持ちと感謝の心を持ち、笑顔を忘れずにコミュニケーションできれば、互いに支え合うことができ、心にゆとりも生まれます。こうした普段の営みや姿勢が良き医療人の育成の源にもなります。私自身が日々範を示していくことで、病院全体を活気づけていこうと考えています。

スタッフが心をひとつにして患者さんを支える

病気を患っている方は辛い思いをしています。だからこそ常に具合に気を配り、気持ちに寄り添い、良質な医療を提供する病院であることを目指しています。当病院は、地域医療連携と急性期医療の推進とともに、医療安全と新型コロナウイルス感染症など新興感染症の対策、ロボット支援手術をはじめとした先進的医療に取り組み、スタッフ一同、心をひとつに力を合わせて、「慈恵医大柏病院なら安心して診療を受けられることができる」と思っていたらいい病院を目指して、地域に、患者さんに良質な医療を提供してまいります。

■附属病院 (本院) 概要



開設年 1881 (明治14)年
病床数 1,075床
教職員数 (2022.7.1現在)
2,577人

2021年度 診療実績
●1日平均外来患者数 2,604人
●1日平均入院患者数 757人
●平均在院日数 (入院) 12.3日
●手術件数 12,850件
●分娩件数 845件
●病床稼働率 70.4%
●患者紹介率 医療法 76.3% 保険法 77.3%

法令による医療機関の指定 (2022.7.1現在)

- 特定機能病院
- 東京都総合周産期母子医療センター
- 東京都地域災害拠点病院
- 東京都難病診療連携拠点病院
- 地域がん診療連携拠点病院
- 小児がん連携病院
- がんゲノム医療連携病院
- 東京都アレルギー-疾患医療拠点病院 (一般型)
- 東京都エイズ診療中核拠点病院 他

第三者機関による評価

公益財団法人日本医療機能評価機構認定施設
(3rdG:Ver.1.0 一般病院2・精神科病院：認定日 2015年5月1日)



■第三病院概要



開設年 1950 (昭和25)年
病床数 581床
教職員数 (2022.7.1現在)
1,005人

2021年度 診療実績
●1日平均外来患者数 1,167人
●1日平均入院患者数 354人
●平均在院日数 (入院) 12.5日
●手術件数 5,146件
●分娩件数 148件
●病床稼働率 60.9%
●患者紹介率 医療法 68.1% 保険法 68.7%

法令による医療機関の指定 (2022.7.1現在)

- 地域医療支援病院
- 東京都がん診療連携拠点病院
- 東京都災害拠点病院
- 東京都指定二次救急医療機関
- 東京都地域連携型認知症疾患医療センター
- 臨床研修病院
- 東京都難病医療協力病院
- 他 当院ホームページ参照

第三者機関による評価

病院機能評価認定病院
(3rdG:Ver.2.0:認定日 2019年6月7日)



■柏病院概要



開設年 1987 (昭和62)年
病床数 664床
教職員数 (2022.7.1現在)
1,318名

2021年度 診療実績
●1日平均外来患者数 1,382人
●1日平均入院患者数 469人
●平均在院日数 (入院) 12.6日
●手術件数 7,430件
●分娩件数 468件
●病床稼働率 70.7%
●患者紹介率 医療法 80.5% 保険法 79.7%

法令による医療機関の指定 (2022.7.1現在)

- 地域医療支援病院
- 救命救急センター
- 地域がん診療連携拠点病院
- 東葛北部地域難病相談・支援センター
- 地域災害拠点病院
- 他 合計24指定

第三者機関による評価

病院機能評価認定病院
(3rdG:Ver.1.1~:認定日 2018年6月16日)

